



体験から得る感動を大切に

学校長 金子 博美

冷たい風が吹くとよけるようについ背中を丸めて歩いてしまいますが、晴れた日には空気が澄んで、顔を上げると学校を取り巻く自然と空の青さが鮮やかに目に映ります。

運動会以降、学年ごとに社会科見学や遠足、体験学習、修学旅行など次々に出かけています。どの学年の活動に引率しても実感するのは、「実体験に勝る感動はない」ということです。「人・もの・こと」との対面や接触の機会が減り、子どもたちへの情報は、間接的なものがほとんどです。朝会も、今ではテレビ放送が当たり前になりつつあり、集会も発表も、映像によるものが多くなりました。そんな日常で迎えた校外学習です。子どもたち一人ひとりの生き生きとした姿を見ることができたことに、まず私自身が感動し、「体験」を通して学ぶことの大切さや必要を感じました。警察で実際に働く人から話を聞いたり自分で丸太を伐採したりする中で、初めて知ることには驚く子どもたちの姿がありました。広い動物園や公園の中で、グループの友達とあれこれ言いながらポイントやクイズをクリアしてゴールを目指す姿もありました。谷本中学校吹奏楽部の演奏、ボランティアの方々による紙人形劇や読み聞かせ、人権教育等の出前授業などにも子どもたちは心を動かし、興味をもって取り組みました。もちろん、箱根でも愛川でも、仲間と行動することを満喫し、初めての遊覧船や藍染め・機織りに喜ぶ子どもたちがたくさんいました。

今はどうしても個々の活動が増えてしまいます。本来ならば学校で経験するはずの緊張や感動の場面が少なくなっているように感じています。心を揺さぶられる時、その出来事はその人自身に刻まれます。体験を伴う様々な活動に取り組む子どもたちの表情やつぶやきから、本物に触れたり自分で試したりすることがいかに貴重かということに気付かされます。これからも子どもたちが体験を通して学ぶ環境や取組を工夫していきたいと考えています。

30周年記念事業ニュース！

【花壇、さつきでいっぱい！】

前号でお知らせした花壇が完成しました。さつきの苗を花壇一杯に植え込んでいただきました。背の高い3本は「五月紅」というもみじです。「さつき」にちなんだ樹木を選んでいただきました。また、20周年記念の松のまわりにも、さつきを植えました。ご来校の際にはぜひご覧ください。

【12月4日に向けて】

今、1年生のアイディアで「ケーキ作り」をしています。6年生は全校に「さつき小おそうじ大作戦」を呼びかけ、みんな奮闘しています。各学年が順番に主役となって取り組んできたお祝いの活動も、いよいよゴールです。また、エンディングセレモニーも「アニバ隊」を中心にただいま準備中です。当日の子どもたちの活動ぶりは、後日皆様にもお知らせします。